応募者必読！

SKETCH THE FUTURE

未来ドラフト 2019

わたしと難民がつながる
アイデア・コンペティション

エントリーサポートブック

World Vision

Take Back Future
難民の子どもの明日を取り戻そう

【重要】　授業を考えるにあたって

以下の情報を必ず確認の上、授業内容を検討してください。

授業を受ける子ども：　9歳～14歳の南スーダン難民の男女

教室の収容人数：　30-45人（机と椅子ありの場合）
※ 机なしで椅子のみの場合は、約60人まで収容可能。椅子は要レンタル。

授業時間：　60-90分

実施場所：　教室内　/　屋外（校庭のような場所）　/　両方

言語：　英語（子どもたちは英語を理解します）

ツール：　日本から持参すれば、何を使ってもＯＫ。
黒板はありますが、汚くなってしまい使えません。
電気はないので、必要であればジェネレーターを借りて、
パソコン　/　プロジェクター　/　ＡＶ機器　等は利用可能

教科：　自由
※教育を受けている子どもは、
算数、国語（現地語）、英語、社会、理科、宗教を学んでいます。
体育、音楽、家庭科などは行われていません。
今回の授業は、いわゆる「特別授業」として行いますので
教科に縛られず自由に考えてください。

電子機器：　ジェネレーター・プロジェクター・音響システム1式：約¥16,500 / 1日

※屋外で音を出したい場合/マイクを使用する場合は音響システムを
レンタルすることを強くお勧めします。教室内であれば、ミニスピーカー
を日本から持参するほうが費用は抑えられます。

その他費用：　プラスチック椅子50脚：¥5,000

現地スタッフ同行費：　¥40,000（必ず発生するので10万円に含めてください）

芸能人やプロ選手等を授業のために起用する際に発生する謝金や旅費は、
10万円に含まないで結構ですが、その費用の調達方法を考案し明記してください。

今、ビディビディの子どもたちは どんな授業を受けているの？

■そもそも、ほとんどの子どもが学校に通っていない

南スーダン難民の子どもが公教育を受けることを望む場合は、ウガンダの小学校・中学校がウガンダの子どもと同様に受け入れます。もちろん、教室の収容人数を大幅に超え、教育の質は低下する可能性がありますが、難民の子どもも教育を受ける権利をもっています。しかし、初等教育や中等教育に一応登録はしてみたものの、南スーダンで暮らしていた頃に教育を受けていなかった子どもにとっては授業についていけず、それ以外にも日々の生活（兄弟姉妹の世話、水汲み、農作業などといった児童労働）での忙しさなどを理由に結局通わなくなる子どもが大勢います。

ビディビディの就学適齢期（3－18歳）の子どもの人口：約133,242人
そのうち、**33%が学校に通っていない。**
(データ：Joint Interagency out of school Assessment in Yumbe District_draft)

■ビディビディの子どもたちが学校に通わない/通わなくなる主な理由

多い順	南スーダン難民の子どもたち	ウガンダの子どもたち（ホストコミュニティ）
1	教育への関心が低い (50%)	経済的理由 (70%)
2	学校までの距離 (40%)	教育への関心が低い (50%)
3	経済的理由(40%)	学校までの距離 (40%)
4	結婚 (18%)	適切な学校がない (15%)
5	適切な学校がない (15%)	子どもを学校に通わせる価値/意味がない(14%)

■ウガンダの小学校・中学校に通っている場合に受けている授業

ウガンダの公的なカリキュラムにのっとった授業を受けます。
教科：算数、国語（現地語）、英語、社会、理科、宗教
ウガンダのカリキュラムの中にアートと体育の授業はありますが、主要6科目が優先され、おろそかになっています。

■学校に通っていない子どもたちのための学習

学校に通っていない多くの子どもたちに、少しでも学習の機会を提供するべく国際機関やNGOは、「ノンフォーマル教育」を実施しています。日本で置き換えると「学童」のような場所で、基本的な読み書きや算数をコミュニティと協力しながら教えています。

① 3歳～9歳：簡単な英語、数字、色。歌や手遊びなどを使った授業。
② 10歳～18歳：本来であれば小学校で習得する算数、英語、国語などを学習し、小学校卒業試験の合格または初等教育への編入を目指す。

※いずれも、希望する子どもたちのみ。②は教科書不足などもあり出席率が低い。

授業を考えるにあたって（続）

教室　（机、椅子あり）

教室　（机、椅子なし）

屋外スペース

屋外で遊んでいる様子

プロジェクター使用の場合は壁に投影

スピーカー　（大音量出ます）

南スーダンでなぜ紛争が起きたの？

■ 南スーダンの歴史

2011年7月、50年以上におよぶ内戦の末、スーダンから独立した世界で最も若い国「南スーダン」。しかし独立後、キール大統領（政府軍、ディンカ族）と元マシャール副大統領（反政府勢力、ヌエル族）の間で石油をめぐった争いが2013年に激化し民族対立に発展。2016年には大規模な衝突が勃発し全国に拡大しました。一般市民が無差別に殺害され始め、多くの南スーダン人は避難を余儀なくされました。

■ 南スーダン難民危機（2019年2月25日時点）

日本に置き換えると、
名古屋市に住む全員が難民という状況

難民*：

2,277,000 人

* 国境を越えて、他国へ避難している人々のこと

国内避難民*：

2,000,000 人

* 国境を超えずに、自国で避難している人々のこと

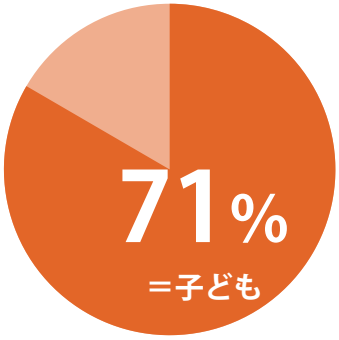
南スーダン 難民の主な避難先：	ウガンダ	スーダン	エチオピア
	794,387 人	848,091 人	422,240 人

Copyrights © World Vision Japan. All Rights Reserved.

世界最大の難民居住地である、ビディビディ難民居住地

(以下、ビディビディ)

▲ビディビディを上空から撮影した様子。ビディビディのほかにも、ウガンダには14の難民居住地があります。



ビディビディに住む難民 約29万人のうち、71%の 約21万人が 0-17歳の子ども

そのほとんどが、子どもだけで辿り着いています。大規模な流入に、難民にも、受入れている地域で暮らすウガンダ人にも、必要な支援が行き届いていないのが現状です。

ウガンダ政府は、居住地に住む難民に対して、以下を認めています：

① **定住の権利**　（難民キャンプのように一時的保護ではない）

② **就労、起業、移動の自由**

③ **土地の提供**　（住居スペース+家庭菜園ができる程度）

④ **公共サービスへのアクセス**

Copyrights © World Vision Japan. All Rights Reserved.

子どもたちはどんな環境で、どんな毎日を過ごしているの？

どんな家に住んでるの？

「トゥクル」と呼ばれる、土や干し草、トタン板で作られた家で暮らしています。大人2人+子ども4-5人でいっぱいになるほどの狭い面積です。電気、ガス、水道はありません。

どんな食事をしているの？

1日1-2食で過ごしています。月2 回配布される食糧は、油・塩・シリアル・豆等。緊急期には、高エネルギービスケット等も配布。与えられた土地内で家庭菜園をする家族もいますが、食糧不足は深刻な課題です。栄養不良の子どもへのサプリメント支援も実施はしているが、行き届いていません。

電気は使えるの？

電気はありません。夜は月と星の光に頼っています。一部、富裕層のトゥクルには小さなソーラーパネルがついていることもありますが、最低限の使用です。水は、手ポンプ式井戸や雨水を貯めるタンクなどから得られるのでアクセスは悪くはないですが、量は十分ではありません。

Copyrights © World Vision Japan. All Rights Reserved.

病院などの施設はあるの？

クリニックは簡易ですが、支援団体が運営しています。十分な薬があるとは言えませんが、歩いてアクセスできる範囲にあります。1番多い子どもの病気は、下痢。水・衛生環境に起因しています。その他は、マラリア、肺炎、はしか、急性呼吸気管支感染症。また、HIV/エイズに感染している人も多くいます。早婚が多いため、居住地内の出生率は高く、資格を持った助産師もいます。

どんな教育を受けているの？

WVJ等の支援団体が子どものための「センター」や公教育を運営しています。センターでは、就学前教育（3〜7歳対象）や短期集中学習プログラム（13〜17歳）など、様々な学習プログラムやイベント等を通して、子どもたちを保護し、教育の機会を与えています。安心して、子どもらしく過ごせる場所はとても大切です。

そのほかにはどんなリスクがあるの？

児童労働：里親（一緒に逃げることになった子どもとそのまま住んでいる親等）がつくったドーナツのようなものを、子どもが１日中売ってまわる、など

早婚：多くの女の子が、早すぎる結婚を強いられています

子ども兵士の徴用：南スーダンに残って戦っている親族や知り合いが勧誘するなど、頻発はしていませんが、可能性はあります。

Copyrights © World Vision Japan. All Rights Reserved.

アイデア実施場所について

■ ワールド・ビジョンが運営する子どものための「センター」について

ビディビディ内にある21棟のセンターは、子どもたちが、子どもらしく元気に安心して過ごせることを目的にワールド・ビジョンが運営しています。午前中はセンターの教室で年齢相応の学習をし、午後は自由に遊んだりスタッフと話して過ごします。

Q. 何人くらいの子どもが通っているの？

A. 1センターあたり、 3歳から18歳の約300人の子どもが通っています。

Q. どれくらいの広さなの？

A. 総面積は日本の中学校くらいです。しかし教室は狭く、横6m x 縦9m ほど。

Q. 電気はあるの？

A. ありません。必要な時はジェネレーターを使います。

Q. トイレはあるの？

A. あります。便器等はなく、小さな穴があいている程度のもの。

Q. 水はあるの？

A.　雨水を貯める貯水タンクや水汲み場から汲んできた水があります。

Q. 遊び道具はあるの？

A.　なわとび、ボール、お絵かき道具、絵本、遊具などがあります。
ただし、あっても数的には足りなく、また壊れやすいです。

通い慣れたセンターは子どもたちにとって、安心して過ごせる空間であるため、
アイデアの実施場所としてオススメですが、それ以外の場所での実施の提案も歓迎します！

Copyrights © World Vision Japan. All Rights Reserved.

難民居住地にある分断 / 対立

難民居住地内には、一触即発状態ではないものの、静かな分断 / 対立があります。

南スーダン人同士の民族間の対立

南スーダン紛争の一因となった長年の民族の対立が、今も影響をぬぐえきれない状況です。異なった伝統、慣習、文化、価値観を持っているので、互いに理解し合うことが必要な中で暮らしています。歩み寄ることが必要であることは分かっていても、そう簡単ではありません。中には、南スーダンにいた頃の衝突における加害者と被害者／被害者遺族が同じ地域で暮らしていることもあります。

南スーダン難民とウガンダ人の対立

ビディビディには、もとからそこに暮らしていたウガンダ人の生活の場でもあるため、大量流入した南スーダン難民を受け入れるのは簡単なことではありません。特に、料理に必要なまきや干し草の資源や、支援団体から届く様々なサービスをめぐった争いが起こることがあります。

＜過去に他の難民居住地で起きた大規模な衝突例＞
南スーダン難民の子どもとウガンダの子どもが「どちらが先に水を汲むか」で喧嘩。それぞれの友だち、そして保護者が喧嘩に加わり、2000人規模の喧嘩に発展。死者2名、多数負傷。

PEACE クラブについて

平和に暮らしたい。
平和なコミュニティをつくりたい。
紛争を繰り返したくない。

そんな想いを行動にうつしているのは、家族や友人を目の前で殺されたり、逃げている途中で家族とはぐれてしまった子どもたち。それが、PEACE クラブです。PEACEクラブは、ビディビディ内に30グループほどあり、各グループは15-50人のメンバーで構成されます。民族・国籍関係なく、住まいから最も近いPEACEクラブにそれぞれのメンバーが所属し、トレーニングプログラムやワークショップ、イベントなどの活動を週１回のペースで行っています。

Copyrights © World Vision Japan. All Rights Reserved.

ワークショップ例

感情コントロールについて学ぶ
ワークショップの様子

平和づくりについて理解を深める
「平和の木」ワークショップの様子

イベント例

平和への想いをダンスで表現している
子どもたち（@センター）

地域に平和な一体感が生まれた
音楽・ダンス・演劇コンテスト

難民の子どもたちが、PEACE MAKER（平和をつくる人） になるために必要な３つのこと

①平和に関する知識・スキル・考え方 / 価値観を身につける
（様々なワークショップやトレーニングプログラムを受ける）
②たがいの違いを乗り越えて、一緒に楽しんだり、平和を促進するイベントを企画する
③ワールド・ビジョンのサポートを得ながら実施する

Copyrights © World Vision Japan. All Rights Reserved.

PEACEクラブメンバーの想い

子どもたちの多くは、家族や友人が殺されるのを目の前で見ています。激しい銃撃戦から逃れるのに精一杯で家族と離ればなれになってしまいました。家族が生きているのかさえ分かりません。でも、「憎しみ」に心を奪われていません。彼らは PEACEクラブのメンバーです。自分たちだけでなく多くの人の心や意識を改革したいと願っています。

愛し合いたい（エバちゃん、16歳）

「あの頃は最悪でした。つねに銃声が響いていました。小さな子どもでも、捕まったらすぐに殺されました。愛も平和もなかったです」「でも私はPEACEクラブのメンバーです。愛と平和が欲しいからです。私たちは1つの国。苦しみで分断されてはいけない。同じ南スーダン人なんだから。愛し合いたい。」

政治家になって国民を愛したい（サムくん、17歳）

「男の子は、つかまったら反政府軍だと決めつけられてすぐに殺された。だから僕たちはつねに怯えていた。銃撃が始まったとき、両親とは一緒にいなかった。ぼくは隣の家の人と逃げたんだ。だから両親も、5人の兄弟姉妹もどこにいるのか分からない。国を逃れたのか、残ったのかも分からない。」「もちろん悲しい。でも、僕は PEACEクラブに入った。憎しみは何の解決にもならないから。もし南スーダンに戻れたら、平和をつくりたい。政治家になって、国民を愛したい。」

生きることが少し楽になった（サイモンくんとお母さん）

「無差別に人が殺された。逃げてるのが見つかれば、その場で殺された。親戚と離ればなれになってしまって、どこにいるのか分からない。」「PEACEクラブのおかげで、生きることが少し楽になった。週に一度集まって、ワールド・ビジョンのPEACEトレーニングを受けたり、色々な活動を通して悲惨な経験からの回復を目指すんだ。」（サイモンくん）「民族主義の危険性や、争いを防ぐ方法、争いを平和のうちに解決する方法を学んでいます。平和とは何か、争わないとは何か、を地域全体で理解することが大事だと思っています。」（サイモンくんのお母さん）

Copyrights © World Vision Japan. All Rights Reserved.

写真で見る、ビディビディ①

▲ワールド・ビジョンが支援する
センターで遊ぶ子どもたち

▲高エネルギービスケットを食べる
3歳のポニちゃん

▲南スーダンで住んでいた家を描き、
「洋服を取りに戻りたい」と話す10歳のジョナスくん

▲食糧配布の様子
ほとんどの人がこの月1回の配布に頼っています

▲保護シェルターで、
石ころを使って楽しく遊ぶ兄妹

▲17人の子どもたちのために食事をつくる母親
血のつながっていない子どもの世話もしています

Copyrights © World Vision Japan. All Rights Reserved.

写真で見る、ビディビディ②

▲ワールド・ビジョンから支援で届いた
ぬいぐるみを嬉しそうに持つジョージくん、5歳

▲ センターで絵を描いて遊んでいる子どもたち

▲ビディビディ到着1週間後に無事産まれた
妹に喜ぶグロリアちゃん、6歳

▲サッカーをして遊んでいる子どもたち
ビディビディで1人で暮らしているジョンくん（中央、12歳）

▲水タンクからわずかな水を使って手を洗う女の子

▲数週間ぶりに食事らしい食事をとる、
ビディビディに到着したばかりの男の子

Copyrights © World Vision Japan. All Rights Reserved.

参考：これまでにビディビディで行われたイベント例

特別な物資支援や特別イベントのほとんどは、子どもたちが安心して集まれるセンターで行われています。

■ 700体のぬいぐるみが届いた！Bears on stairs プロジェクト

ワールド・ビジョンUKが実施した "#BearsOnStairs" プロジェクト（詳しくは下記リンクにてご覧ください)によって届いた700体のくまのぬいぐるみを受け取って喜ぶ子どもたち。ぬいぐるみに初めて触れる子どもがほとんどで、どこに行くにも持ち歩いています。 https://www.worldvision.org.uk/get-involved/bears-stairs/

■ プロの芸術家を一緒にセンターに絵を描く！Brighter Futureプロジェクト

苦難の経験や希望への想いを絵を通して表現するプロジェクトを実施。
https://www.worldvision.jp/children/brighterfuture/

＜イベントストーリー＞「たった1人の生活は、とてもつらい」

紛争が激化した夜、逃げるためにお父さんを起こしに寝室へ向かうと屋根の垂木から吊るされているお父さんを見つけたリナちゃん、16歳。ビディビディで1人で暮らしています。「たった1人での生活は、とてもつらい。2人だったら、耐えられるかもしれないけど、私は1人。勉強したいけれど、過去のことを考えると混乱するの」。そんな辛い過去を持つリナちゃんは、「女性英雄像」の絵に色をつけることを決意。「「私はこの絵が大好きです。だから、どうしても自分で色をつけたかったの。作業している間、私はとても楽しくて、過去のことは考えませんでした」と話します。

Copyrights © World Vision Japan. All Rights Reserved.